

ふうあIねっと おたより

Ibaraki の

Fu Fukushima と

福島と茨城の人と人、心と心をつなぐ

目次

- p. 2 イベント行ってきました～。
- p. 3 「明日へつなぐ船」への想い
- p. 4 交流会日程一覧
- p. 5 茨城県内避難者数
- p. 6-7 対談「子どもたちの進学について」
- p. 8 んだったのか!? 消滅時効について
- p. 9 人から人へ
- p. 10 編集後記



場所：毎年、11月頃から浪江町立野の田んぼに出現する白鳥の湖。
 撮影者：にしはら歯科クリニックの西原一成さん
 震災当初より茨城県（つくば市、北茨城市）に避難。
 来年、いわき市植田にて事業再開予定しております。

※次号の表紙を飾る写真を募集中です。

ふうあIねっとは福島県の補助によって発行されています。

発行 ふうあIねっと

震災と原発事故により福島県から茨城県に避難されている方々をサポートするためのネットワーク組織です。

〒310-0022 茨城県水戸市梅香2-1-39 茨城県労働福祉会館2階

☎ 029-353-8560 FAX 029-300-4320 eメール fuai.sta@gmail.com

ブログ <http://fuai.hatenablog.com/>

facebook <https://www.facebook.com/fuainet?ref=hl>

イベント行ってきました～

リフレッシュキャンプ (8月19日～21日)

私たちは、茨城大学学生のボランティアチーム (FnnpP 茨城 Jr.) です。今年の夏、県西の古河市ネーブルパークで2泊3日のリフレッシュ・キャンプを行いました。6組のご家族に参加していただきました。お化けがなかなか出てこない(?)ナイト・ハイクやうちわづくり、キャンプファイヤー、そして暑さも吹き飛ばすほど豪華なバーベキューを楽しみました(協同組合ネット茨城さま、食材のご提供ありがとうございました)。子どもたちは皆パワフルで、帰りのバスで爆睡していたのは子どもたちではなく、大学生。子供たちの元気いっばいに遊ぶ姿から元気をもらいました。キャンプを行うのは私たち学生にとって初めての経験だったので、不安もありましたが、アンケートに参加の皆さんが「楽しかった!」と書いて下さっていたのは、嬉しかったです。

村長 町田 亮 (茨城大学人文学部3年)



アイススケートショー (9月21日、22日)

2日間に渡ったアイススケートショーには291名の方が招待されました。

「抽選あたるかな」「会場内は羽織るものがあつた方が良いのかしら」とワクワクしながら参加した方々の中には数か月ぶりに会ったという方だけではなく、なんと20年ぶりの再会も!!

トップスケーターの躍動的な演技を楽しまれたようでした。

また、当日ふうあいねつで記念撮影のコーナーを設け、100名の方々のメッセージや写真を撮らせていただいたものをもとに記念アルバムを作成しました。



ありぺしう
こんな
大きく「ほりました。」



安藤美姫ちゃん
すっごく
綺麗だった!!

会場を盛り上げる
音楽やスケートリンクが
間近で削っている音が
すごかったわ!!

稲敷地区で説明会をしました（10月14日）

11世帯の方が参加（美浦村3世帯、稲敷市2世帯、牛久市2世帯、阿見町1世帯、つくば市3世帯）福島県から県庁に派遣されている早坂さんや、つくば市の並木小学校に派遣されている星野先生がそれぞれの取り組みを説明しました。

美浦村の村長、教育長だけではなく地域活動をされている方々も参加し、茨城・福島関係なく同世代で話が盛り上がる会となりました。



スタッフからコメント

「同年代の方と話が盛り上がって楽しかったわ。すでに地域に馴染んでいる話が聞かれたと部分とどこかで避難元の方とつながりたいと思ってらっしゃる方もいて、私もその応援ができればと思いました。」

ここでは紹介しきれませんでした。他の地域でもイベントが開催されています。「夏のイベントに参加できなくて残念だったな。」と思った方は「明日へつなぐ船」や、次のページに載っている秋～冬のイベントを一度のぞいてみませんか？

参加者大募集！！

浅野さん
大熊町から水戸市にきている浅野です。
相双地区は引き続き困難な状況にあります。



「明日へつなぐ船」への思い

「明日へつなぐ船」は12月25日～28日に行われる企画。
定期フェリーの船内や北海道滞在を利用した研修です。

これまでの国や市町村と住民の双方向コミュニケーションが十分ではなく、様々なことが対等になっていない状態と感じています。私たちのように福島県の外に出てしまうと、特に子どもたちのように転校に近い状況では、学校の友人や両親にもなかなか話せないこともあるのではないのでしょうか。

今回、大洗く苦小牧の定期航路フェリーを利用した「明日（あした）へつなぐ船」では、子どもたちがお互いの「現状」や「未来」を語ったり考えたり、そしてその「想い」を発信できる場をつくっていきたいと思っています。

次の世代の君たちが津波被害のあった大洗から出港し、福島、宮城、岩手の沿岸部のことを感じ、これからのことを考える仲間を作り、明日へのメッセージとして大人社会に伝えられることを期待しています。

さっそく船に参加したいという小学生の子からの参加申し込みと、富岡町の広報誌やふうあいおたよりを見てお手伝いしたいという数人の大人の方々からご連絡いただいています。ありがたいですね。最終的に20人の子どもたちを集まっています。最終的に20人の子どもたちを集まっています。良い企画になるように現在、フェリー会社や北海道の知人と打ち合わせを重ね、準備を進めています。11月初旬以降には明日へつなぐ船実行委員会をスタートしていきたいと思っておりますので、皆様にも出航当日までの準備などご協力いただきますようお願いできればと思います。ご連絡お待ちしております。

天井からコメント

「浅野さんは水戸市から福島県にも通いながら、休日は茨城県内の大熊町の「積小為大の会」の事務局をしてらっしゃいます。お手伝いして頂ける方、伝えたいメッセージがある方、船に乗り合わせて子どもたちの面倒見るよ」という方、ご連絡お待ちしております。」

問い合わせ・連絡先

茨城 NPO センター・コモンズ 天井（あまい）まで

Tel : 029-300-4321 FAX: 029-300-4320 eメール : info@npocommons.org

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

交流会日程一覧

開催日	時間	地域	イベント名	内容	会場名	参加費	主催	☎
11月24日 (日)	◆説明会 13:00～ 14:30 ◆個別相談 14:30～	水戸市	「原子力損害賠償説明会」 ・財物賠償・時効の消滅・原紛センターの現 状・弁護団の活動内容の説明 ・個別相談(希望者のみ)		茨城大学地 域総合研究 所	無料	茨城大学人文学部 茨城県弁護士会	090-3924-0171
12月4日 (日)	13:00～	水戸市	「震災とマスコミ報道」シンポジウム 堀潤氏(元NHKアナウンサー)		茨城大学人 文学部	無料	茨城大学人文学部	090-3924-0171
11月29日 (土)	10:00～ 14:00	那珂市	芋煮会		内宿農村集 落センター	無料	NPO法人 おたがいさま	090-6702-5138
12月20日 (土)	10:00～ 14:00		お餅つき会			無料		
1月25日 (土)	9:00～ 11:30		麴づくりに参加しませんか			1000円		
2月22日 (土)	9:00～ 11:30		お味噌づくりのお誘いです			500円		
毎週土曜 日	9:00～ 11:30		野菜づくり&お喋り 仲間募集中	避難されている水 戸・県北の方が集 まっています。	ふくしま・ふ れあい農園	無料		
10月27日 (日)	8:30～	水戸市	常陸秋蕎麦・野菜の栽 培を楽しもう EMぼかし利用した無農 薬・有機栽培	刈取り	水戸市大場 町の遊休畑	無料	一般社団法人 生きがいつくりアド バイザー協議会	029-247-8158 (090-5457-9806)
11月4日 (日)	8:30～			脱穀・唐箕かけ		無料		
11月10日 (日)	8:30～			唐箕掛け2回目		無料		
12月1日 (日)	10:00～ 15:00	水戸市	蕎麦打ちを楽しもう 蕎麦打ち名人と蕎 麦打ち、かき揚げ作 り		水戸市稲荷 第二市民セ ンター	300円		
11月10日 (日)	10:00～ 15:00	つくば市	かるた作り、起き上がり小法師作り、シ チューづくり、体を動かせる企画、紅葉に よる「しおり」作り		竹園交流セ ンター	200円	Tsukuba for 3.11 つくば市	tsukubafor311@gmail.com
11月17日 (日)	13:00～ 15:30	水戸市	福島県から避難している中学生と保護者 向けの高校進学に関する相談会		水戸生涯学 習センター	無料	ふうあいねっと	029-353-8560
11月26日 (火)	10:00～ 12:30	鹿嶋市	ユニセフ学習会とお裁縫教室		茨城県ユニ セフ協会	500円 (バック材 料費)	茨城県ユニセフ協会	029-224-3020 (月～金10～16時)
12月21日 (土)	10:00～ 12:00	土浦市	お茶会をしながら避難中のあれこれ共有 しませんか?		土浦社協	無料	ふくしまキッズカフェ (郡山から土浦に來 ている四井まで)	fukushimakidscafe@ muse.ocn.ne.jp 029-353-8560
12月25～ 28日	チラシ参 照	大洗～ 北海道	「明日へつなぐ船」 大洗～苫小牧フェリーと北海道滞在中の研修			10000円	明日へつなぐ船実行 委員会	029-300-4321
毎週木曜 日	16:00～ 17:00	水戸市	震災によって転入さ れた児童・生徒及び 保護者の交流会	進路のこと、福島の情 報を知りたい。福島の 人に会いたいという 声に応じて	水戸市総合 教育研究所	無料	水戸教育事務所管内 被災児童生徒支援相 談員 蛭田先生 (福島県から派遣)	029-244-6730
	9:00～ 17:00	県央地 域・県北 地域	震災等で県外 から県央・県北地域の小中 学校に転入学した児童生徒や保護者等 の相談を行っています 【内容】子どもの相談全般、保護者の悩み 事、福島県内の教育情報					
開催日	時間	地域	イベント名	内容	会場名	参加費	主催	☎
平日9:00～17:00		県南地域	つくば市内を中心に県南の小中学校の児童生徒や保 護者の相談を行っています。				つくば市立並木小学校 星野先生(福島県から派遣)	029-851-2806
平日9:00～17:15		茨城県	福島県からの避難についての問い合わせ。 交流会の参加も応相談。				福島県避難者支援課 茨城県災害対策本部福島支援班 早坂さん(福島県から派遣)	029-301-5977

子どもたちの進学



蛭田智之先生（福島県教育委員会より茨城県教育委員会に派遣中）

今年度、福島県の古殿中学校より派遣されています。茨城県水戸市の出身ですが、現在、福島県の教員として働いています。単身赴任でこちらにきており、家族は浅川町に住んでおります。福島県では郡山市、南会津郡、岩瀬郡、石川郡などの学校に勤務してきましたので、福島のことについても、だいぶ詳しくなりました。薄皮まんじゅう、ままだおる、ゆべしなど福島銘菓が大好きです。進路指導等、何か皆さんのお役に立てることがあればと思いますので、今後ともよろしく願います。

るかもしれませんね。情報収集や学校との相談が大切だと思います。

横田 住民票を茨城県内に移していない場合でも、在籍中学校の校長先生から在学している状況説明書を出してもらえば茨城県の高校は受検できるようですね。茨城に住んでいて福島の公立高校を受検できるのでしょうか。

蛭田 高校に通い始めるまでには、基本的に保護者とともに福島県に居住して通学することが必要になるそうです。しかし個別にいろいろなケースが考えられますので、こちらも高校教育課に問い合わせいただくことが必要です。

横田 その場合、普通科の学区制はどうなりますか。

蛭田 避難前または居住予定の通学区域のどちらかを選んで受検できます。

横田 例えば、親の仕事の関係で、家族全員が福島に帰るのが来年夏になる予定で、子どもが先に福島の親戚のところへ移って来春、福島の高校に入ることはできるのでしょうか。

蛭田 まず、今現在居住しているところの高校に通い、保護者の転居に合わせて、転学するのが基本のようです。しかし、こちらも福島県の高校教育課にご相談していただくことが必要だと思います。

横田 高校の選択は、子どもにとっても家族にとっても将来に関わる大事なことですよね。

蛭田 そうですね。私も、福島県の高校のこと、受検の状況などを茨城にいる皆さんにお伝えしていきたいと思えます。木曜日には、水戸市総合教育研究所で、福島からこられた保護者向けのサロンを行っていますし、ご連絡いただければ、

県内各地に出向いていきたいと思えます。

横田 先生、今日はありがとうございました。ふうあいねつとでも、今後、高校進学や学費など教育に関する情報提供に力を入れて行きたいと思えます。今後ともよろしく願います。

	福島県	茨城県
普通科の学区割り	8学区	全県（学区なし）
選抜方式	I期 全校で実施、教科試験なし	推薦入試がなく、特色選抜でも5教科の試験を共通選抜と同時期に受検。
	II期 学力検査	
	III期 定員割れの学校で実施	
受検条件	原則として県内に保護者と居住、または入学時までに居住見込みであること	

福島県から避難している中学生と保護者向けの高校進学に関する相談会

日時 平成25年11月17日（日）13:00～15:30
 会場 水戸生涯学習センター（茨城県三の丸庁舎 3F 中講座室 茨城県水戸市三の丸1-5-38）
 対象 茨城に避難している福島の中学生保護者（小学生の保護者も可）
 内容 茨城県と福島県の公立高校受検の違い、高校受検の手続き、高校受検の経験談
 参加費 無料
 主催 ふうあいねつと
 申し込み 下記まで、参加者名と連絡先、質問事項をお知らせください。
 TEL：029-353-8560 FAX 029-353-8561 MAILL fuai.sta@gmail.com

について

受検生のご家族は必見 福島と茨城で異なる高校受検事情

横田能洋（ふうあいねっと代表・茨城 NPO センター・コムズに勤務）

千葉県から、大学進学で茨城へきて 27 年。ボランティアで知り合った妻は教師生活二十数年。自分は、15 年前に脱サラして、市民活動や就労を支援する仕事をしてきました。今、茨城在住の外国籍生徒の高校進学率向上も活動テーマのひとつです。いつ帰国するか先が見えず慣れない土地で暮らしている状況が福島の方と重なってみえます。長男が今春、高校受検にチャレンジして少し成長しました。子どもたちが夢をもち、チャレンジできるように、進路に関する情報提供や見学や体験の機会を増やそうと活動しています。



住む場所を選ぶ際、子どもの進学先をどうするかも考えますよね。子どもにとっても学生時代をどこで過ごすかは大きな選択です。今回は、福島と茨城の高校受検（公立高の場合は受験ではなく受検だそうです）について次の二人が対談します。

横田 先生は、福島県の教育委員会からの派遣で茨城に来られたのですよね

蛭田 そうです。福島から茨城に避難している中学生や保護者の支援ということで派遣されています。

横田 小学校は、星野先生（前号のおたよりで紹介）がつくば市の並木小に派遣されています。

横田 蛭田先生は、今はどちらにいらつしやるんですか。

蛭田 水戸市の千波中学校と水戸市総合教育研究所に勤務しながら、県内の学校などを訪問しています。

横田 保護者などからの希望があれば、水戸市以外でも訪問されるのですか。

蛭田 生徒本人や保護者はもちろん、学校から依頼があり、慣れない土地で困っている小中学生がいれば、できるだけ力になりたいと思っています。

○高校の学区制の違い

横田 今回は、高校入試のことで伺いたのですが、茨城県と福島県では何か違いがあるのでしょうか。

蛭田 まず普通科には通学区域がきまつていて、県北、会津、相馬など8つの学区にわかれています。

横田 学区が違うと受検できないということですか

蛭田 通学区域にも、固定区、共通区があり、さらに隣接学区も受けられたりするなど、居住している場所によって違

いますので、かなり複雑になっています。詳しくは、福島県の高校教育課に問い合わせさせていただくことが必要だと思います。学区制については、今後変わる可能性もあります。

横田 茨城県もかつては5つの学区にわかれていましたが、7年前から廃止され、どこに住んでも受験できるようになっています。そこがまず違いますね。推薦の仕組みはどうなっていますか。

○推薦入試の違い

蛭田 福島はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期と選抜があり、Ⅰ期は、調査書や面接、小論文などで選抜され、Ⅱ期は、5教科の試験があります。Ⅲ期は定員を下回った学校が行うもので茨城でいう2次募集ですね。

横田 なるほど、だいぶ仕組みが違いますね。公立高校は希望すれば2回チャンスがあるのですね。茨城では、今年の春の（平成25年度）から入試制度が変わり推薦入試が廃止されました。スポーツや文化で優れた実績がある生徒が対象になる特色選抜が、以前の推薦に近いものですが、試験は一般入試と同じ日で、5教科の学力検査も受けることになります。

○受検に向けて

蛭田 福島の場合は、近くの高校へ進学するのが一般的でしたので、茨城の高校を受検する場合は、プレッシャーを感じ

んだったのか!?

(題字 石田恵)

弁護士さんに聞く

～第2回 消滅時効で権利が消滅するって?～

東京電力に対する賠償問題を解決するために支援をしている弁護士にお話を聞く、連載シリーズ「んだったのか!」。

第2回は、「消滅時効」について聞いてみました。

弁護士：飯田健太郎さん「ふうあいねっとの交流会にもよく参加してくださっている誠実でさわやかな弁護士さんです。」

消滅時効ってそもそも何ですか？

消滅時効とは、一定の時間が経過すると権利が消滅する制度のことを言います。東京電力に対して賠償を求める権利は、最短で、事故発生時から3年が経過する来年の3月11日には消滅してしまうおそれがあります。

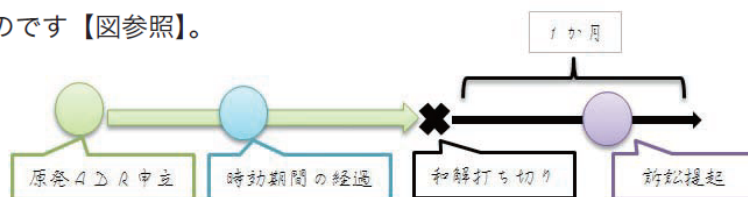
事故発生時から3年が経過すると賠償請求ができなくなるの？

必ずしもそうとは言えません。東京電力は、3年の期間を数え始める時期について、賠償請求の受付を開始した時にするという見解を公表しています。この見解からすれば、例えば、今年の3月以降に受付が開始された宅地・建物の賠償を求める権利が消滅するのは、平成28年3月以降ということになります。また、東京電力からのダイレクトメール等が送付された時点から、再び3年の期間を数え始めるという見解も公表されています。

しかし、東京電力の見解のみでは、消滅時効の不安を完全に払拭することはできません。そこで、これまでも各方面から、東京電力に対する賠償請求については、消滅時効の制度を適用させない法律を定めるべきだという意見が出されていました。

消滅時効を撤廃する法律ができたって本当？

消滅時効が撤廃されたわけではありませんが、今年の6月に、一定の解決が図られた法律が公布・施行されました。原賠ADR時効中断特例法（正式名称は「東日本大震災に係る原子力損害賠償紛争についての原子力損害賠償紛争審査会による和解仲介手続の利用に係る時効の中断の特例に関する法律」と言う法律で、原賠ADRを利用していけば、和解が成立しないまま時効期間が経過してしまっても、和解打ち切り通知から1か月以内に裁判所に訴えることで、権利が時効にかからないようにするものです【図参照】。



しかし、原賠ADRを利用している方は限られているうえ、1か月以内に裁判所に訴えることは相当にハードルが高く、この法律は抜本的な解決にはなっていません。

さらなる立法の動きはありますか？

現在、東京電力に対する賠償請求に関して、3年という消滅時効の期間を10年に延長するという内容の議員立法の動きが見られています。

東京電力が把握していない避難者の方も多くおられます。1日も早く、消滅時効の不安を解消するためにも、迅速で、かつ、分かりやすい立法の措置が求められます。

人から人へ

今回取材させていただいた方からリレー方式で様々な方につながっていくコーナーです。

釣りが好きで、たきもと釣り具店に行って、請戸でよく釣りをしていました。今は時々大洗、日立の久慈からの船を出して大物狙いで釣りをしています。最近ではアカムツを狙っていますが、なかなか釣れません(笑)



渡部孝昌さん（水戸市 浪江町新町） おたより編集委員

浪江町にいた頃は双葉町でパソコン関係と人材派遣の会社をやっていました。

震災後は県内外に10回あまり避難しました。その最中に次男も誕生。妻は大変な中、頑張ってくれました。会津にも行きましたが寒さや雪が慣れないこともあり、水戸に住んでいた兄を頼って長男の小学校の入学のタイミングで水戸に住むことを決めました。入学手続きの時には兄には世話になりました。

最初はアパートに住みましたが、子どもが元気なこともあって一軒家の賃貸へ引っ越しました。行った先々で子どもたちは馴染んでいく元気に育っています。

今は先が見えず決められないという気持ちですが、子どものことを考えながら今後のことを決めていきたいですし、いずれは子どもたちがのびのび過ごせるような子ども部屋のある家が欲しいと思っています。

避難している方々でお互いに今の状況や今後のことをどう考えているか話したいなと思っています。地元の話もしたいですね。

仕事で疲れがたまったり、肩こりをする事が多いのですが、月に1回程、体の調子を整えていただけてなんとか過ごしています。その前後に健康のことや話題のニュースをお話をしてゆったりと過ごします。自分の家のように落ち着いてしまう場所です。(笑)



天野貴博さん（水戸市 南相馬市小高区）

南相馬市小高区で院をされていた時は院長の天野貴博さんの腕を聞きつけ、地元の方だけではなく、大熊町や福島市からも訪ねてくる方がいました。震災後は山形県に避難後、水戸にて再開。茨城で出会った方々やご友人の縁もあって徐々にお客さんも増えてきているそうです。

「患者さんの背骨の過去・現在・未来を診ながら、怖くない・痛くない、安全な施術を行っています。症状を軽くして、健康になる説明を加え、患者さんとともに健康づくりをしていきたいです。それだけではなく、いろんな楽しいお話をして、笑顔になって帰っていただきたい。」と。また、今後の生活については「ありがたいことに僕は好きなことを仕事にすることができました。茨城で新たに出会った患者さんを診ながら、地域の健康づくりに貢献していきたいと考えています。」とおっしゃる通り、優しい人柄が滲み出るような笑顔で出迎えてくださり、体の調子を整えつつ、穏やかに楽しい時間を過ごすことができる院です。

編集後記 ～おたより編集委員会より～

編集会議から（10月3日）

「今回、この編集会議に参加して下さったきっかけはなんですか？」

- ・ なにか手伝えることがあるかなと思いました。
- ・ 今つながっている方以外にも新しい出会いがあるかなと思って。
- ・ おたより作りのこと勉強できるかなと思ってきました。

「これまでの“ふうあいおたより”へのご感想は？」

- ・ 町の広報誌に載ってない情報が良いね。
- ・ 固い情報はあんまり見ないよ。字が小さいし。
- ・ 子どもも参加できるイベントあるかなって見てましたよ。
- ・ みんなが今、何をしているかが分かる記事は見ちゃうよね。
- ・ 茨城県の人にもおたよりを見てもらいたいよね。

「一緒に考える必要があることってなんだろう？」

- ・ 福島にいた頃、東海村の臨界事故の時は遠いところの話だと思ってた。
- ・ 臨界事故の時は茨城の方々はどうしてたんだろう。
- ・ 備えが必要だったよね。通帳ひとつとっても大変だった。
- ・ 茨城の人に防災のことや、避難のことを伝える必要があるよね。
- ・ 原発事故のことで茨城と福島で共感すること記事にしても良いよね。
- ・ 東海村の事故がきっかけに人生観が変わったのよ。

他の悩みも話になりました。

- ・ 地元に残っている状態だし、次の仕事のことは悩んでいます。
- ・ 色々あったけれど震災太りも悩みのひとつだったな。
- ・ みんなで体を動かすことやしましょうよ。



石田恵さん 石田貴博さん（浪江町・日立市）、田中貴佐代さん（浪江町・東海村）、渡部孝昌さん（浪江町・水戸市）に吉田知津子さん（ハンズオン埼玉）、横田能洋、原口弥生、天井優志（ふうあいねっと）とで会議中。

10月3日に前回の「ふうあいおたより編集委員募集」の記事を見てご参加いただいた浪江町の方々を中心におたよりをテーマに編集会議を開きました。ざっくばらんにいろんな話が飛び出し福島と茨城の出会いの場の時間にもなりました。今後も、定期的に「ふうあい編集会議」を行って参ります。ご興味ある方はぜひ一度ご参加いただけますことスタッフ一同楽しみにおまちしております。

「ふうあい編集委員 募集中!!」
福島から避難して来た方、もともと茨城の方など茨城県在住の方ならどなたでも

ふうあいねっとの紹介

ふうあいねっとは震災がきっかけとなって茨城の各地で活動し始めた人が集ってできたネットワークです。仕事、年代、性格も実に多様な方が出入りして、情報交換をしたり、こんな人がいるよと紹介しあったりして、一緒にできる活動を考えています。イベント、相談会などいろいろな情報を集めて届けながら、人のつながりをつくってあげればと活動しています。

ふうあいおたよりの発行のそのひとつです。今回、福島の方が編集に加わっていただき新たな情報紙をつくることができました。「こんなことがしたい」という声と、人のつながりがあれば、いろんなことができます。どんなことでも、声をうけとめたいと思っています。おたよりの感想、こんな情報がほしいといった要望、ご質問、活動の提案など、いつでもお聞かせ下さい。

2013年10月現在28団体が加盟して活動しています。



スタッフの紹介

ふうあいねっと事務局 天井優志 1984年南相馬市生まれ

岩手、宮城などを経て水戸市で育ちました。2010年大学卒業後、提灯作りの仕事などを経験。震災後に現在のNPO職員となり、2011年はいわき市の津波被災地区や仮設住宅で生活支援を行っていました。2012年春から水戸に戻り、ふうあいねっと事務局をしながら福島県内を月に2回程行き来しています。

時間がある時には絵を描いたり、映画・音楽鑑賞を楽しんでいます。